

様 式 C - 1 9、F - 1 9 - 1、Z - 1 9 （共通）

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：10102

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13970

研究課題名（和文）地方都市において展開可能な貧困対策に関する基礎研究：カナダの先進事例比較を通して

研究課題名（英文）Comparison of Poverty Reduction Approaches in Regional Cities and Towns: A Case Study between Canada and Japan

研究代表者

中村 直樹（Nakamura, Naoki）

北海道教育大学・教育学部・講師

研究者番号：30458210

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では、先進事例比較に基づいて、地方都市における「貧困実態」を踏まえた地域レベルで展開できる貧困対策を検討するという目的の下で、次の主たる研究成果をあげることができた。ハリファックス市における地域レベルで展開されている貧困対策の1つである「Poverty Solutions Discussion」の導入可能性・有効性を明らかにした。ハリファックス市における地域レベルで展開されている貧困対策の現地調査から「コミュニティへのインパクト」「コミュニティへのルーツ」「コミュニティへのアウトリーチ」の3つの貧困対策に有効な知見を得て、この3つの観点から日本の地方都市における貧困対策を再検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、日本の地方都市における貧困対策に関する知見を得ることを目的に取り組み、地方都市・地域レベルで展開可能な貧困対策の前提となる基礎的な知見を提供することができた。それゆえ、この研究成果は地方都市の貧困対策への貢献という社会的意義を持つものである。また、本研究では「貧困実態」と貧困対策のためのアクションの接近を試みた。新型コロナウイルス感染拡大の影響でパイロットプロジェクトを計画通りに実施することができず道半ばといった感があるが、本研究の一連の試みは両分野の横断が有意義であることも含意するものとして学術的意義を持つといえる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to examine the development and effectiveness of a community-based poverty reduction approach to poverty in regional cities and towns. The two main findings of this study are. (1) This study developed a prototype Japanese version of the “Poverty Solutions Discussion,” one of the approaches to poverty reduction developed at the community level in the City of Halifax. This study then piloted the Poverty Solutions Discussion using this Japanese version and examined its effectiveness in Japan. (2) This study obtained effective findings on three poverty measures, “community impact,” “community roots,” and “community outreach,” from a field survey in Halifax. This study also reviewed poverty measures in regional cities and towns in Japan from these three perspectives.

研究分野：社会福祉学

キーワード：貧困 貧困削減 コミュニティ 地方都市 比較研究 事例研究 社会福祉

## 1. 研究開始当初の背景

近年、子どもの貧困をはじめとする「貧困問題」が日本社会においても大きな社会的課題であることが認識されつつある。貧困問題が注目を集めているのは、それまで日本でなじみのなかった「貧困率」が示されたことが大きいといえる。今日では、こうした量的な「貧困率」の把握に加えて、「貧困の実態」に関する調査が各自治体で行われており、貧困は、従来からいわれていたように、お金の不足だけではなく、生活・教育・医療・健康・余暇などさまざまな側面での不利や困難を負ってしまうという問題であることがデータによって明らかになりつつある。このように貧困は、各地で、子ども、若者、高齢者などの多くの人々のお金や機会を欠如させ、各地域の福祉を脅かしている問題といえる。

こうした「貧困問題」に対しては、所得保障システムの再構築など、国のレベルで問題に対応すべきことは言うまでもないが、一方で近年蓄積されつつある各地域の「貧困実態」を踏まえ地域レベルでの貧困対策の開発・展開を検討するという課題もある。実際、地域の「貧困実態」を踏まえて進められている支援や活動を見ることができる。特に「こども食堂」や学習支援などの民間支援団体による支援活動が注目を集めており、そこには貧困問題に関心を持ち、自分にできることをやろうと行動を起こす市民の姿がある。

しかし、地方においては、貧困対策に関する社会資源などが限定的であり、地域の貧困対策の開発・展開のための知識を有する市民が十分にいるとは限らない。それゆえ、同様の制約を抱えた環境において、「貧困実態」と地域レベルの貧困対策の開発・展開が効果的につながり、「貧困問題」の改善をみせた地方都市の先進事例（後述するハリファックス市）があれば、その詳細を明らかにすることは、日本の地方都市における貧困対策に寄与しうるものと考えられる。さらにその導入可能性と有効性を明らかにできれば、「貧困問題」を抱える日本の地方都市での貧困改善の応用可能性を示すことができる。

## 2. 研究の目的

本研究は、先進事例比較に基づいて、地方都市における「貧困実態」を踏まえた地域レベルで開発・展開できる貧困対策の導入可能性・有効性を検討することを目的とした。具体的には、3 か年（新型コロナウイルス感染拡大の影響を理由とする補助事業期間延長により5 か年）のうちに次の4つの手順を踏む。

先進事例比較の視点から対象都市（後述するハリファックス市）の「貧困実態」を踏まえた地域レベルで開発・展開されている貧困対策の効果の検証、日本の地方都市での導入方策の模索、日本の地方都市での実践効果の検討、～より先進事例を基にした地方都市における貧困対策の構築をおこなう。

## 3. 研究の方法

本研究では、先進事例比較に基づいて、地方都市における「貧困実態」を踏まえた地域レベルで開発・展開できる貧困対策の導入可能性・有効性を検討する、という目的を達成するために、対象都市（カナダのノバスコシア州ハリファックス市）における地域レベルで開発・展開されている貧困対策の各プロジェクトの調査をおこなった。そこで得られた知見を基に、パイロットプロジェクトとして実際に函館市において貧困対策のプロジェクトを実践し、その実践について検討をおこなった。

## 4. 研究成果

(1) 本研究では、先進事例比較に基づいて、地方都市における「貧困実態」を踏まえた地域レベルで開発・展開できる貧困対策の導入可能性・有効性を検討する、という目的を達成するために、対象都市（カナダ・ハリファックス市）における地域レベルで開発・展開されている貧困対策の各プロジェクトの調査をおこなった。しかしながら、当初予期していなかったこととして、新型コロナウイルス感染拡大の影響により2019年度中（2020年3月）に計画していた海外現地調査が中止、さらに同影響が続いたことにより2020年度と2021年度、そして補助事業期間延長後の2022年度に計画していた海外現地調査と市民を集めてのプロジェクトの実施が中止となった。それゆえ海外現地調査が最終年度の2023年度の実施となってしまったため、その成果を2024年以降も論文等にて発表していく予定である。

(2) ハリファックス市のUNITED WAY HALIFAXで開発・展開されている貧困対策の各プロジェクトを明らかにし、その内のPoverty Solutions Discussionをパイロットプロジェクトとして函館市内の学生を対象に試行したことである。その成果として、次の4つから成るディスカッション・クエスション

1. Knowing that poverty is not just a measure of inadequate income,

how would you define poverty? What word comes to mind when you think about poverty? 2. What do you think contributes most to poverty in your community? How do our systems and institutions perpetuate the cycle of poverty? 3. What is the most important thing that needs to be done to eliminate poverty in your community? 4. What can be done to make it possible for everyone to participate in your community? の日本語版を作成し、デスカッションを試行した。このデスカッションで得られた意見・声を意味単位に分類して分析をおこない (Figure 1 - 4) 次の2つのことが示唆された。「貧困の理解」: 貧困ではない人々の間には、明確な貧困に関する知識の欠如があった。したがって、貧困層の人々が直面している困難を真に理解する機会を設けることが重要であり、それによって貧困の解決に地域住民がより関与することの可能性が示唆された。「コミュニティベースのサポート」: 貧困には様々な要因があるが、今回、貧困の一因となる要因は、コミュニティレベルでの貧困対策の実施の欠如であることが示唆された。したがって、貧困層の人々に対する地域に根ざした支援を築く必要があり、そのためには、貧困の理解を通じて地域住民の交流や協力を促進することが重要である。なお、以上の成果と同時に、この成果を導いた Poverty Solutions Discussion の導入可能性・有効性も示唆されたといえる。

Figure 1. Knowing that poverty is not just a measure of inadequate income, how would you define poverty? What word comes to mind when you think about poverty?

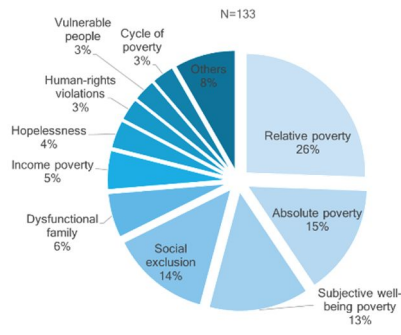


Figure 2. What do you think contributes most to poverty in your community? How do our systems and institutions perpetuate the cycle of poverty?

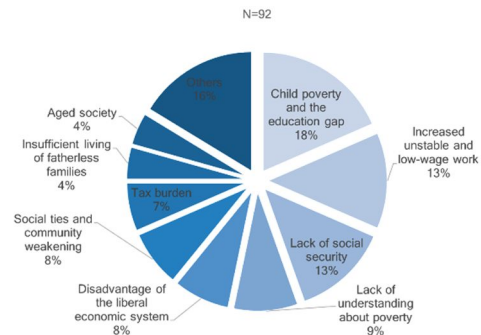


Figure 3. What is the most important thing that needs to be done to eliminate poverty in your community?

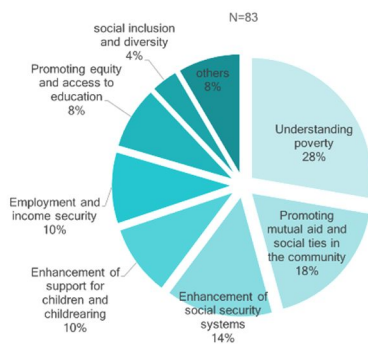
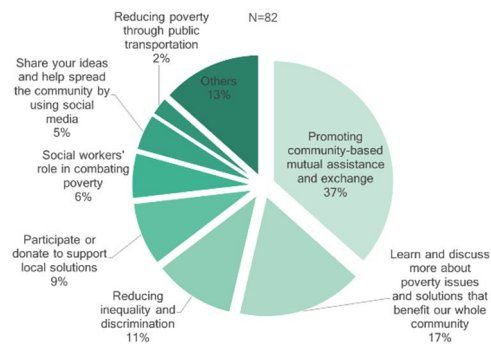


Figure 4. What can be done to make it possible for everyone to participate in your community?



(3) 貧困対策に関する知見を得ることを目的に、海外現地調査をハリファックス Central Library、PARKER STREET FOOD & FURNITURE BANK、Gottingen Street 及び周辺、Akoma Family Centre 及び Akoma Holdings、The Public Good Society of Dartmouth にて実施した。調査で得られた主な知見として、各プロジェクトから見出すことのできた「コミュニティへのインパクト」「コミュニティへのルーツ」「コミュニティへのアウトリーチ」の3つの特徴を挙げることができる。新型コロナウイルスの影響で、この知見を基にしたパイロットプロジェクトを実行することはできなかったが、この3つの特徴を観点とし日本の地方都市での貧困対策を再考・再評価し、子どもの貧困対策に限定されるが、貧困対策の「日本モデル」について言及を試みた。その成果の一部は“Child Poverty Reduction Strategies and Programs in Japan”として国際学会にて発表した。しかし、全体的に見て貧困対策の「日本モデル」を明らかにするデータは十分にそろっていない、そのためのさらなる研究を必要としている。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1 . 発表者名 Naoki Nakamura
2 . 発表標題 The Kodomo-Shokudo: Cafeteria for Children as a Poverty Reduction Program in Japan
3 . 学会等名 International Federation of Social Workers Online Global Conference (Rheinfelden, Switzerland (Online)) (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Naoki Nakamura
2 . 発表標題 A Practice about Building Poverty Solutions in Hokkaido, Japan
3 . 学会等名 25th Asia-Pacific Joint Regional Social Work Conference (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Naoki Nakamura
2 . 発表標題 Challenge and Prospect of Communication in Social Work towards Society 5.0
3 . 学会等名 The 2nd International Conference on Social Work (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Naoki Nakamura
2 . 発表標題 Child Poverty Reduction Strategies and Programs in Japan
3 . 学会等名 27th IFSW Asia-Pacific Regional Conference 2023 (国際学会)
4 . 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Authors: Naoki Nakamura, Margaret Lavina Fernandes, Hafiz Uddin Bhuiyan, K. Hemalatha, Purnima Pandey, Et al. Editors: Shashidhara Channappa, Nagaraj Naik M	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Suvvi Publications	5. 総ページ数 284
3. 書名 Community Development Case Studies in Asia-A Collection of Contemporary Cases from Social Work Perspective (第1章“Supporting Children and Young People by Community Development: Case Studies from Japan”担当)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------